

初修外国チューター：留学生との授業実践

新潟大学人文学部非常勤講師

クロエ ヴィアート

授業の概念

新潟大学に勤め、今年で10年が経ちました。その上で気がついたこと、感じたことを織り交ぜながら、このご報告をしたいと思います。

アンケートによると、学生の大部分は、専門としてではなく、主に知的な興味や関心として、一年間、第二外国語としてのフランス語を学び始めます。そのうち約20人はさらに中・上級レベルに進み、毎年2-3人の学生はフランス留学をしています。

ほかの外国語授業と同様に、フランス語クラスも、自由闊達な雰囲気の中、フランス言語の勉強を通して、多言語・多文化について考えるきっかけとなる授業と考え、授業を行っています。フランス語を知り、自分の知らない言葉の仕組みを経験する。新しい目で文化や社会を実際に体験してもらうことができれば、といつも思います。フランス語を学ぶのは言うまでもありません。しかしただ教科書の内容を機械的にマスターするというよりも、フランス語という生きたことばを、全身を通して学ぶ機会として、授業を位置づけているのです。

留学生との共同

私は2002年、従来の授業に加え、希望者を募って「星の王子さま」プロジェクトを実施しました。「星の王子さま」のフランス語劇を準備・上演するというプロジェクトで、その年の四月から半年にかけて、学生や先生、またフランス語圏出身の私の友人たちなどフランス語好きの方々とともに、毎日、放課後や休日に練習を重ねて実現したものです。全部で〇〇人が参加してくれました。参加者は大変熱心で、とても良い公演ができました。フランス語のせりふの稽古を重ねて舞台に立つ。難しい体験でしたが、学生にとっては、とても豊かな経験となったと思います。（「星の王子さま」DVD）

またいつかできたら、といつも思いますが、残念ながら学生にも負担が大きすぎて、そうひんぱんには繰り返せません。そこで、これほど極端な苦勞をせずに、毎年つねに実現できる方法はないか、考えてみました。

フランス語ネイティブスピーカーとの日常的な交流は、最もよい方法だと思いつきました。新潟大学には、さいわい、いくつかの大学との提携により、フランス人学生が毎年、交換留学生として大学にきています。彼らとフランス語学習者たちが、交流をもったらどうかと思ったのです。

しかし、留学生と日本人学生たちで、ただコンパやパーティをするだけでは、本当の意味での親交はむずぶことはできません。フランス人も、日本人も、同じような年頃の学生ではありますが、講師が積極的に指導しないと、なかなかうまく交流してくれません。そこで数年前から、フランス人留学生の希望者に頼んで、フランス語の授業に参加してもらうことにしてみました。最初は回数は少なかったのですが、留学生のなかに、非常に関心を持ってくれる学生が現れ始め、見事なモチベーションのおかげで、2005年から現在のように頻繁にコラボレーションする授業ができるようになりました。2008年度第二学期からは、「初修外国語チューター」という職名で留学生を雇用し、教育補助するチューター制度のパイロット・プログラムを開始し、フランス語科目のいくつかの授業内で実際に実践するようにしました。2009年度第一学期には、フランス語科目の中で初修外国語チューターを採用する授業科目数を増やし、さらに同年度第二学期には中国語とドイツ語科目にもこの制度を適応するなど、徐々に実施する外国科目およびクラス数を拡大してきました。

この取り組みは、文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）」平成19年度採択「総合大学における外国語教育の新しいモデルー初修外国語カリキュラムの多様化と学士課程一貫教育システムの構築ー」の一環として行われました。

次に、この授業で工夫した点、成功した点、また問題点についてお話しします。

好結果

最も効果のあった活動を先に整理して報告します。

紙芝居

平成20年度第二期に開講した私の「フランス語コ

コミュニケーション」科目(中・上級向け)には、7名の学生が登録してくれました。この年はまた、姉妹提携校であるフランス・ボルドー大学に加え、フランス・ナント大学とも教育交流ができ、六人のフランス人留学生が新潟にやってきました。彼ら全員がこの授業に参加してくれ、日本人とフランス人学生がほとんど一対一 one-to-one のクラスができ、90分休みなくコミュニケーションを指導・学習する環境ができました。この授業では、フランスで有名な作家の演劇作品を3つ読み、その中から自由に一つを選んでついて、フランス語で紙芝居をつくってみるという試みをしました。こちらが学生の作った紙芝居です。HPもありますのでどうかご参考ください。

(紙芝居紹介-LionelとCecileも??)

<http://shindaifr2009.cafewiki.org/>

このプロジェクトのもう一つの目標は、これからもずっと使える教材を作ることでした。平成21年第一期のフランス語入門クラスでは、日本語とフランス語二カ国語による紙芝居の発表を予定しております。

また、この授業では、フランス語を勉強してきた学年の違う日本人学生たちの後輩・先輩のあいだの親交を深めることにも成功しました。頼りがいのある先輩の協力のもとで、後輩が楽しくフランス文化の入門をするのです。学生が高く評価してくれた授業になりました。

新潟についての発表

フランス語スタンダードとフランス語インテンシブのクラスではフランスから来たばかりの留学生に新潟の魅力を紹介するプロジェクトを計画しました。

フランス語チューターの方は、もちろんフランス語については圧倒的な知識や能力を持っていますから、ふだん日本人学生はどうしても文法や発音を彼らから学ぶだけの、一方通行的な授業になってしまいます。ただアンバランスな交流より、一緒に教えあったり、学びあったりする関係ができれば、もっとよいのです。

そこで、学生と留学生とが力をあわせて新潟を紹介するテキストをつくる、という授業を初めて見たのです。日本人学生は留学生から言語能力の補助をうけ、新潟の魅力についてフランス語で発表・報告をしました。チューターのおかげで日本人学習者がリソースパーソンとして活動しました。フランス語インテンシブの様子を紹介しましょう。

(HP:<http://www.niigatashindaifr2009.cafewiki.org/index.php>)

(USB ファイルで映像)

特にスタンダード・クラスでは発音などの上で繰り返し練習を重ねる必要がありました。完璧な発表になるまで、フランス人学生と何回も練習していきました。この発表が最終成績の一部になりました。

個人レッスン

平成19年第二期に新しい交流を試しました。希望する学生はフランス人留学生から補習・個人レッスンをするという交流を始めました。大学の予算で、補習を担当する留学生に補助を出し、5クラスに対して開始しました。残念ながら人気がありすぎて、すぐ需要が供給を上回っていました。今回はほとんど広報せずに、留学生の知り合いにしか参加できませんでした。新しい段階に入るには、よりシステムを再考することが必要かと思います。フランス留学を希望する学生や論文を準備する学生を優先するか逆に最もできていない学生を優先するか、考えていく必要があります。

チューターにも

もう一つの好結果は留学生たち当人にもありますでしょう。この授業参加の経験後、フランス語を教えるという経験につよい興味を覚えた留学生たちは何人もいて、フランスの大学に戻ってフランス語教師要請プログラムを履修し始めた留学生は何人もいます。そのうち、実際に日本の Jet プログラムに参加したのは2人、またすでにフランス語講師となって日本に戻り、現在実際に名古屋の Alliance française や名古屋大学を始め、フランス語教育に従事しているもとの留学生は3人います。留学生にも、新潟大学の経験は、自分のそのあとの活動にきわめて有効になったというわけです。

限界と問題点

色んな意味で好結果に導く体制ですが、問題点もいくつか発生しました。

人数問題とチューターの立場

特に私に幾つかのクラスに試して、特に考慮すべき重要点はチューターの人数です。コミュニケーションのクラスにはチューターが大勢に来てもらって、ダイナミックなインタラクティブの集中教育活動ができて良かったです。結局、豊かな交流になるには少なくとも4-5人の日本人学生にチューター1人がいるだろうと思います。10人に1人は限界でしょう。特に30人を超えている私のフランス語スタンダードに1人だけのチューターしかいなかった場合、なかなか難しかった時がありました。(特に今までは、教える方法を学んでいなかった「ただ」の留学生だったので)

チューターは講師ではありませんので、先生のかわ

りに授業を行うわけではありません。チューターの役割をどう考えればいいのでしょうか。ネーティブの先生の授業に来てくれる時、あまり発音のお手本などには意味がありません。講師本人もできるし、テープやビデオなどという教材もあるからでしょう。できるだけ、アドバイスとリソースとサポートを支援する相手として働きかけました。

言語的な問題

私もクラスでは入門のレベルからフランス語だけしか授業では使用しないという環境を与えます。初級のレベルには文法の説明はもちろん、フランス語だけで理解できないはずなので、日本語字幕にします。

私はフランス語だけを話し、黒板に其れを日本語に訳したりします。チューターが参加するときもできるだけ日本語一切なしに願います。学生が日本語で説明などを依頼してもいいですが、ネーティブは母国語だけです。特に教科書以外の生き生きフランス語を聞かせるチューターの一つの役割です。問題点は其れではなく、現代フランス社会・文化を教えるときです。言語だけでなく、できるだけ多様性の目標を忘れずにしばしばチューターにフランスのあれこれについて意見を尋ねます。

それに対してフランス語だけで語ったら、最も大切な情報を聞き逃してしまいます。そこで、授業中はよくチューターにクイズ作りを頼みます。yes か no かの選択質問にしてもらって、日本人学生が遊びながら、簡単なフランス語で聞き取ったり答えたりできます。

また「びっくり日記」の時は、日本人学生がフランス語や、フランス語圏について自分の関心のある事柄を1人で調べて、日本語で発表します。それにチューターができるだけ平易なフランス語で対応します。限られている言語環境の中でも情報交換はなんとかできます。

個人的にはチューターに日本語で発表するのを依頼しませんでした。でもそれも一つの方法であろうと思います。異文化理解のため、中級クラスではフランス語で発表することも考えられます。(――>Guerry先生)我々ネーティブスピーカの教師は数年(あるいは何十年前から)来日して日本で暮らしており、つい最近の母国の様子の分からないときがありますから、チューターの存在はその意味では宝物です。学生と同年配であり、関心が重なる場合が多いからです。よく各クラスでは、チューターからのお勧め歌手・CDを紹介してもらいました。(――>ベンジャミンの作ってくれたCD)長く日本に暮らしたフランス語講師より現在のフランス社会をはるかによく知っているため、

情報リソースの相手にもなります。其れは授業中に限りません。

頻度問題

初級レベルでは特に、学習と実習のバランスを取るの大切です。正直に言いますと、ときどきはチューター達が教室にいないほうがいいときもあり、残念に思ったこともありました。まだ聞き取りやゲームをするには時期的に早すぎるため、どうすればいいか迷ったときもありました。

チューターが授業の開講最初から最後まではすべてについて出勤しなくてもいいと思います。特別な活動のないときにはクラスの始まりに話し合っ、今日の学習ポイントについてちょっとした応用練習の作ってもらいました。私が授業の内容を説明する間に彼らは私の指導を受け、授業の様子の聞きながら、問題を書いてくれました。説明を聞いて、ぴったりの応用問題をつくってもらったこともよくありました。ネーティブの前で授業を行うのを恥ずかしく感じる先生もいらっしゃるかもしれませんが、チューターがただの「観客」の立場になるのではなく、クラスの一部になってもらえれば、スムーズに行けます。また、留学生は、フランス語を教えるために日本に来ているわけではないので、できるだけ宿題や後の準備は頼まないようにしました。

学歴問題

以上お話したように、フランス人チューターは、フランス語教育への関心やモチベーションを持っていますが、本来は日本語を勉強に来た留学生で、教育への経験の不足はやはり問題点となるでしょう。実際に経験したところでは、私が講師としてその日の授業でイメージしていた練習問題と、実際にチューターである彼らがこしらえた練習問題が異なった事もありました。それがよい結果になる場合もありますが、限界も感じるときもありましたので、来年からも引き続きよい方法を考えております。

最後になりますが、昨年のフランス・ナント大学と教育交流の開始と共に、留学生と連繋する新たな教育プログラムを開発できそうですので、ご報告します。これは、情報通信技術 (ICT) の教育利用により e ラーニングプラットフォーム (Moodle と Madoc) で、遠隔学習環境におけるチューター制度となる予定です。フランスでは既に2002年から利用されている教育方法です。

<http://w3.u-grenoble3.fr/fle-1-ligne/evolution.php>

例えばフランスグロノーブル大学では2形態の学習プログラムが提供されています。一方は、同期的学習、

他方非同期学習プログラムです。マスターコースのフランス人大学院生との共同で、学習タスクを作成し、日本人学生に勉強してもらいます。

①非同期学習の場合は、講師と相談しながら、Unitの内容と目標を作成し、フランス側が構築してくれたeラーニングプラットフォーム（MoodleとMadoc）に乗せます。

日本人学生は、宿題や授業中に、テキストや写真や動画や音声（MP3）などと言った資料で勉強します。利点は遠隔自律学習環境としても使用できます。

②同期学習の場合は、決まった時間にパソコンの前に座って、2人のフランス人チューターとのリアルタイム指導をまず45分間受け、その後約45分自習、チャットなどで引き続きおこないます（フランス語でFOAD（Formation Ouverte et a Distance）と呼ばれるシステムで、遠隔オープン教育と訳せるでしょうか。チューターは自習プログラムをDVDで録画して、後で分析します。

新潟大学の場合、まず最も簡単にできそうな一つめの非同期学習活動を先に実現していきたいと思います。今私はナント大学のプログラム担当責任者Stéphanie BERTHOと検討中です。その後、同期学習活動にも

チャレンジしたいです。ナント大学と計画を立て、特にリアルタイム対面チャットを早期に実現したいと考えております。

このシステムに、どういう風に新潟に滞在している留学生に参加してもらえばよいか、考えているところです。平成22年度第一学期にはeラーニングプラットフォームを利用し、留学生チューターと一緒に日本人学生の学習に活用させるつもりでおります。後ほど、新しい授業実践結果について報告いたします。

新潟市ではフランス語を実際に聞いたり話したりするチャンスが少ないため、様々な方法を開発して豊かな学習環境を作りたいと思います。実際に目標に合わせてネイティブスピーカと交流するのを習慣化したく、留学生チューター制度をさらに改善し、インタラクティブな教育活動をおこなう方法を研究（アクションリサーチ）したいと考えております。つまりチューター制度は、こうした多様な教育ツールの一つです。使ってみたらいかがですか。

今日はそんな私のつたない活動の成果をお話することになりました。皆様にもいろいろと教えて頂きたい、そう考えながら参りました。ご静聴有り難うございました。ご感想や質問をお待ちしております。

初修外国チューター：留学生との実践

Chloe Viatte (非常勤講師 新潟大学 フランス語)

実施までの背景

- ・ 2002年「星の王子様」
新潟大学フランス人留学生と共同でキャンパスで演劇
- ・ 2005年～「チームプロジェクト」授業中留学生と共同
- ・ 2007年～留学生と正式にコラボ
- ・ 2007年文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」
- ・ 2008年度第二期「初修外国語チューター」
雇用・教育補助を依頼するチューター制度パイロット・プログラムを開始
- ・ 2009年度第二学期中国語とドイツ語科目にも実施
実施クラス数を拡大

2009年度の活動

三形態のチューター支援：
サポート・リソース・アドバイス



- ・ 紙芝居プロジェクト
- ・ チューターと一緒に異文化リテラシーへ
- ・ 「新潟の魅力」発表会
- ・ リソース交換
- ・ 個人レッスン
- ・ 学生のニーズに合う実習環境作り

問題点

- ・ 学生とチューターの比率
対話形学習環境作りの条件
- ・ コミュニケーション能力
異文化と語学力
- ・ 参加頻度
学習と実習のバランス
- ・ チューターのFormation
留学生を養成する必要

今後の展望

- ・ フランス・ナント大学との交流

情報通信技術(TIC)の教育利用によりe-
ラーニングプラットフォーム(MoodleとMadoo)
を開発し、

遠隔学習環境におけるチュー
ター制度に拡大

